

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 シーバンス保育園
施設所在地	東京都港区芝浦1-2-2 シーバンスアモール3F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・自園の子どもたちとスタッフが、遊びの中で親しんだり楽しんだりしているものが絵本である。
- ・近隣の図書館との交流もあるが、散歩の活動時間内では時間に限りがあり、ゆっくりと楽しむ事が難しい。自園のホールは広いが、構造的に活用が難しいスペースがある。そこを図書館のようにすることで、子どもたちの活動の幅や子どもとスタッフの仲も深まると考えた。
- ・絵本作家さんなどの講師を招いた活動も十分なスペースを確保出来る。また、絵本から広がる活動は沢山あると考え、子どもとスタッフがワクワクするような活動が継続的にでき、保護者や地域の方々とも共有できるイベントにも繋げていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

保育室にあった海の生き物図鑑を保育者や友達と楽しみ、海の生き物への興味があった。また夏祭りの移動水族館で実際にカニやカメなどに触れ、より海の生き物への興味関心が増した。また海の生き物の図鑑で調べたり、海の生き物の製作をしたりしていく中で他のもの(植物や虫)への興味も出てきた。

5月～6月：子どもたちが海の生き物の図鑑に興味を持ち、保育者や友達と一緒に楽しむ。
日常から生き物に興味があるクラスで、生き物を探究していこうと方向性を決める。
さらに興味を広げるために新しい図鑑を購入して環境を整備する。

7月5日：毎年園で行っている移動水族館でカメやカニなどの生き物に直接触れることで、海の生き物への興味が増す。

7月：いつも『海の生物に会いたい』という子どもの声を受け、保育室内に水族館を作る計画をする。

移動水族館で出会った生き物たちのイラストを園の壁や天井に貼る。

子どもがもっと生き物を作りたいと意欲が生まれるように子どもの手形、足形を取って海の生き物を製作する活動を行い、水族館作りを楽しめるような環境を作る。

8月～10月：手形や足形で作った海の生き物を自分たちで壁に貼り、クラスオリジナルの水族館を作る。

運動会のクラステーマを子どもの好きな海の生き物に設定し、保護者と一緒に海の生き物で運動会に楽しく参加することができた。

10月22日：サメが好きな一人の子どもの声から、模造紙に手を使って絵の具で色を塗り、1.5mのジンベイザメを製作する。出来上がったジンベイザメを保育室に貼ると「ジンベイザメ見てるね」と子どもたち同士の会話が広がったり、子どもたちから保育者に「見て見て！」とジンベイザメを作った事を嬉しそうに話す姿があり、ますます海の生き物への興味関心が子どもたちの中で広がっていく。

11月～12月：購入した植物の図鑑に興味を持ち、子どもたちの興味がどんぐりに広がっていく。

散歩でのどんぐり集めを計画し、保育参加では子どもたちが拾ったどんぐりを使って、保護者と楽器を作り、その楽器を使って2月の発表会の構成をする。

12月：新しい本棚が完成。新しい絵本を収納できるようになり、冬の植物にも興味を広げている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

●絵本コーナー充実のための本棚

●2歳児クラス

海の生き物の図鑑

植物、虫の図鑑

●1歳児クラス

はたらくくるま

乗り物絵本

●0歳児クラス

だるまさんと(大型絵本)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 子どもがどのようなものに興味を持っているのか観察し、子どもたちの声から、テーマを「海の生き物」に決める。
2. 移動水族館で本物の生き物に触れると、子どもたちの興味関心がさらに増す。
3. 環境作り① 子どもたちと話し合い、保育室の一角に水族館コーナーを作る。
始めは保育者がイラストを貼り、水族館のイメージを形にする。
4. 環境作り② 一人ひとりの手形、足形をとり、子どもたちオリジナルの海の生き物を製作する。
自分で色を選べるようにしたり、どのようなイメージでも受け入れるようにする。
5. 水族館コーナーが出来てからの子どもたちを観察する。自分で作った作品を眺めたり、友達作品を見て一緒に喜んだり、子どもたち同士の関わりが広がった。好きな魚が明確な子もいた。
6. 環境作り③ 水族館コーナーは子どもたちにとって落ち着けるスペースとなり、マットを敷いて座ったり寝転がったりしながらイラストや自分たちの作品を見られるようにした。
7. 環境作り④ 「サメが好き」という一人の子どもの声から、サメについての関心が高まった為、子どもたちが一番好きなジンベイザメを共同で製作する。
8. 大きな模造紙に自由にのびのびと色を塗り、巨大なジンベイザメを作った。完成すると水族館に加わり、子どもたちは自分たちで作ったものの大きさに驚きと嬉しさを感じていた。保護者にはドキュメンテーションを通して活動の様子を伝えた。また、担任間では子どもたちがどのように水族館コーナーで過ごしていたか、今後どのようなことを取り入れたらさらに活動が広がるか、また、他にも興味を持っていることがあるか話し合ったり振り返ったりを繰り返した。主任とのミーティングでは様子を報告し、今後の方向性を相談した。
9. 海の生き物だけでなく、自然物に興味を持ち始めた為、散歩ではどんぐり拾いを行った。
10. 環境作り⑤ 植物や虫の図鑑を用意した。
11. 植物や虫の図鑑も夢中で見ている姿があり、子どもたちが興味を持っていることを保護者にも知ってもらうため、保育参加で子どもたちが拾ったどんぐりで楽器を作ることを計画し実施した。
12. 振り返りの中で、子どもたちの興味が広がるにつれ、心も成長していることに気が付いた。先を見通す力や個人の世界から友達への関心に繋がったり、生活面に於いても「自分で」という意欲や「自分たちで作った」という自信や喜びにも繋がった。これらの振り返りはドキュメンテーションや懇談会資料などで保護者に共有し、他クラスにはクラス報告という時間に共有した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・保育室にあった海の生き物図鑑に興味を持ち、「これはなに？」と聞いたり、友達と一緒に図鑑を見たりする姿が見られた。夏祭りの移動水族館でカニやカメなどの生き物に触れると、より興味が増し、図鑑で海の生き物を見つけるたびに「カニだ」「このまえさわったよね」など保育者や友達に話していた。子どもたちとのやりとりの中で、一人ひとりがどのような事に興味を持っているのか、抱いた疑問や興味を発展させる為に「お部屋に水族館を作るうか？」と子どもたちに問いかけると「やった一つくりたい」と嬉しそうなお姿があり、保育室の一角に『水族館コーナー』を作ることを決める。
- ・まずは保育者が天井や壁に海の生き物のイラストを貼り水族館コーナーを作る。イラストを見て「サメいるね」と言う姿や、友達と一緒に「イルカいるよ」「こっちにもいる」と探したり「タコはどこにいる?」「ここ」とクイズを出しあったりと楽しむ姿が見られた。そういったやりとりや声を拾い、水族館コーナーをより良くするた為、子どもたちの手形や足形を使ってオリジナルの生き物作りを計画した。絵の具の色は自分で選べるようにすると、「あかにする」「しろがいい」と積極的に参加していた。画用紙に手形や足形が付くと「みて、できた」と嬉しそうなお表情だった。水族館コーナーに追加されるとわかると、楽しみに待つ姿も見られた。
- ・生き物が壁に貼られると「これは〇〇のだよ」「いっぱいだね」と、自分の作品を探して友達に教える姿や、沢山の生き物があることに喜ぶ姿が見られた。担任以外の保育者にも「みてみて」と嬉しそうに話す姿も診られた。図鑑を見たり水族館コーナーで遊んだりしている中で、一人の子が特にサメへ関心を持っていた。その子の影響もあり、他の子も『サメ』という生き物に興味を示していたので、みんなでジンベイザメを作ることにした。リアリティーが出るよう、本物のように大きな模造紙を用意し(1.5mくらい)、色を付ける時には豪快に手を動かし、模造紙の白い部分がなくなるまで色塗りを楽しんでいた。
- ・巨大なジンベイザメが出来上がると「ジンベイザメだ」「ジンベイザメみてよ」と、日常の中で会話が繰り返された。ジンベイザメが見ているという嬉しさから、自分で食事を進めたり、身の回りのことを積極的に取り組んだり子どもたちの意欲にも繋がった。また散歩時に植物や虫を見つくと「これなに？」と保育者に聞く姿も増え、海の生き物以外への興味が見られるようになった。図鑑を見ながら「どんぐりみつけたよね」「またひろいたいね」と言ったり、散歩中に「どんぐりあるかな」と探し、見つけると喜ぶ姿が見られた。海の生き物への興味は継続してある中、成長と共に次の興味へ移っていることを感じ、植物や虫に関する活動も計画した。
- ・子どもたちが興味を持っていることを保護者に知ってほしいという思いから、保育参加で保護者の方と楽器作りを行った。子どもたちは保護者に「いっぱいあつめたんだよ」「〇〇がひろったんだよ」と散歩の様子を思い出しながら保護者との会話と一緒に作る時間を楽しんでいた。また発表会で使う楽器に繋げ、作って終わりではなく、自分で拾ったどんぐりや作った楽器(もの)を大切に育む気持ちが育まれるようにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

①普段から海の生き物に興味を持っていた子どもたち。毎年夏まつりで園に移動水族館が来ていて、実際に触れる経験をしたことにより、さらに興味関心が広がった。また、保育室にあった海の生き物の図鑑に興味を持ち、海の生き物の名前も言えるようになってきた。

②子どもたちの姿から、保育室に水族館コーナーを作りたいことを提案し、自分たちで生き物を作ったことでより海の生き物が身近になった。またサメが好きな一人の子どもの声が大きなジンベエザメの製作に繋がった。それぞれ好きな物があったが、共同体験をすることで活動を1つにまとめいった。その中で友達と嬉しさを分かち合ったり、さらに製作意欲が高まったり、水族館コーナーを作ったことで友達との関わりや言葉でのやりとりも増えてきた。

③子どもたちの姿や興味を持っていることを観察し、『水族館コーナー』を子どもたちと一緒に考え、環境を変えたことで楽しみながら活動できた。海の生き物が好きな子どもたちは、他のことにも興味を示し、今は植物や虫への興味が出てきた。活動を通して子どもたちは成長と共に「これなに？」と疑問が生まれたり、自然と「自分で」という気持ちが芽生え、子どもたちが少し先を見通して、楽しんで活動するすがたが見られるようになり、一人ひとりの成長は生活面にも繋がっていることに気が付いた。

④今後も散歩先で見つけた植物や生き物を図鑑で探したり、子どもたちが興味を持ったものを製作で作って飾ったりし、より興味を深められるようにしていきたい。また、保護者も子どもたちと一緒に楽しめるよう、新しく出来た絵本コーナーに生き物コーナーを作ったり、子どもたちが「今」興味を持っている絵本や図鑑を飾ったりしながら一緒に楽しんでもらえるよう環境を作っていく。0歳児クラスは『だるまさんと』の絵本を中心に、身体を動かす遊びや、だるまさんを作る製作を行った。1歳児クラスは『はたらくくるま』が好きな子が多く、絵本で見た消防車を実際に見に行き、消防車に乗せてもらった経験がしばらく経っても子どもたちの心には残っており、見たことや感じたことを話す姿があった。3クラスとも、イメージの世界が現実になる楽しさを通して子どもたちの発達の理解が深まった。